

ヨーロッパの街と歴史をたどる

■講座内容

ヨーロッパは、地理的、歴史的、文化的にみて、共通の基盤の上に立つと同時に、きわめて大きな多様性を示す地域です。その地域が、現在、政治的、経済的統合を掲げる欧州連合(EU)という共同体として、大きく変容を遂げようとしています。

本講座では、ヨーロッパの街にスポットを当て、その歴史と文化を紹介します。それぞれの街を知ること、ヨーロッパという地域の多様性と地理的、時間的連続性を複合的に理解し、ヨーロッパ文化を多角的な視点から捉えることが可能になるでしょう。また、充実した旅を準備したいと思っている方にもお勧めです。

■講師 福岡大学人文学部

- 第1講：浦上 雅司 文化学科教授
 第2講：鶴田 学 英語学科教授
 第3講：富重 純子 ドイツ語学科教授
 第4講：辻部 大介 フランス語学科教授

期間	5/13～6/17 4回
曜日・時間	土曜日 13:00～14:30
対象・定員	一般・学生 100人
会場	福岡大学
受講料	一般:2,000円(4講) 大学生:1,000円 (4講、開講初日徴収)
受付・申込方法	先着順 5ページの申込方法参照

■講義内容

講	月	日	曜日	担当	講義内容
1	5	13	土	浦上	イタリア地方都市の魅力「マントヴァ」 ロンバルディア平野の中央に位置するマントヴァは、かつてはドイツとイタリアを結ぶ街道上の宿場町として栄えました。ルネサンス期には領主ゴンザーガ家によって新しい文化が育まれ現在でもその名残が色濃く残っています。モンテヴェルディのオペラ《オルフェウス》が初演されたのもここでした。本講では、世界遺産であるこの街の魅力を様々な角度からご紹介します。
2	5	27	土	鶴田	文学・歴史の街「ロンドン」探訪 夏目漱石が幻夢の世界として描いた「倫敦塔」。そのロンドン塔を起点とする約3キロに及ぶ長い壁と南側に位置するテムズ川とに囲まれたところが旧ロンドン市街です。本講では、14世紀の宮廷詩人チョーサー、16世紀の劇作家シェイクスピア、18世紀の小説家デフォー、19世紀の文豪ディケンズ等の文学を通して、その史跡・名所を探訪します。
3	6	10	土	富重	国際都市「ハノーファー」 北ドイツの主要都市のひとつであるハノーファー。オランダに隣接し、北海に面するいわゆるハノーファー王国の中心都市であったハノーファーは、あまり知られていませんが、歴史的にイギリスと深い結びつきがありました。その中心的存在が、ハノーファー選帝侯ゲオルクにして、グレートブリテン王ジョージ一世です。王の宮廷音楽家であった、もうひとりのゲオルク、すなわちヘンデルにも触れながら、ヨーロッパの「国際都市」のひとつの形について解説します。
4	6	17	土	辻部	フランス最大のリゾート地「ニース」 南フランスの景勝地コートダジュールの中心都市ニースをとりあげ、とりたてて特徴のない田舎町が、19世紀以降、避暑地として人気を集め、世界的な観光スポットとなった歴史を、1930年と1995年に撮られた映像によって街の景観をたしかめながら紹介します。また、ニース出身の作家ル・クレジオが、生まれ故郷の町をどのようにとらえているかを通して、都市と文明について考察します。